

史跡 長七谷地貝塚 【関連資産】

(読み方) しせき ちょうしちやちかいづか

(英 語) Choshichiyachi site

【所在地】

青森県八戸市桔梗野

【年代】

紀元前 6,000 年頃 (約 8,000 年前)

【キャッチコピー】

縄文海進期の貝塚を伴う集落跡

【説明文：98字】

海進期に形成された貝塚を中心とした集落遺跡。貝塚からは、暖かい場所に棲息するハマグリをはじめ、多量の貝殻や魚骨、動物の角や骨を加工した釣針や銚頭などが出土し、活発に漁労が行われていたことを伝える。

【説明文：146字】

海進期に形成された貝塚を中心とした集落遺跡。貝塚からは、暖かい場所に棲息するハマグリをはじめ、スズキやクロダイなどの魚骨、組合せ式の釣針や銚頭が多数出土し、活発な漁労活動を伝える。貝塚は、気候の温暖化により海水面が上昇した時期に形成されており、人々が環境に適応しながら暮らしていたことを示す。

【説明文：240字】

海進期に形成された古奥入瀬湾の沿岸に立地する貝塚を伴う集落遺跡。貝塚からは、温暖な環境に棲息するハマグリやオオノガイなど貝類のほか、スズキやクロダイなどの内湾性、カツオやマグロなどの外洋性の魚骨が出土した。このほか、動物の骨や角でつくられた組合せ式の釣針や銚頭などの骨角器もみられ、漁労が活発に行われていたことを示す。貝塚は、気候の温暖化により海水面が上昇し、海が内陸へ入り込んだ時期に形成されたものであり、人々が環境変動に適応しながら生活していたことを知る上で重要な遺跡である。